

みかんが身近なままの未来へ

千葉県船橋市立湊町小学校

六年

若田部 陸久

関東から南の代表的な果物といえばみかんだ。僕の近所のスーパーにも一年中並ぶ。農家の方々の努力のおかげだ。

秋から冬が旬のみかんにはビタミンC等が豊富で有名だ。年末には遠く離れて暮らす祖父母達から、収穫間もない、緑の葉の香りも残るぎつしり果汁のつまった丸っこいみかんが箱でどっさり届く。きつと「冬に旬の果物を毎日食べて、寒い時期も体を壊さず健康で元気に過ごすんだよ。」という願いが込められているんだと嬉しく思う。身近なみかんだからこそ、安全だし安心する。

国産みかんについて、少し心配なニュースを見た。代表的な品種の温州みかんの栽培最適地が、地球温暖化の影響で年々減少しているというのだ。冬に暖かい気候が好きなはずのみかんの木だが、夏の気温上昇や太陽熱で日焼け枯れをしやすくなってしまっているそうだ。

二酸化炭素排出量の削減活動は、経済発展重視の流れとは逆の取り組みだ。日本も含む大量排出国ではなかなか進めづらいのだという。僕も果物の生育環境のことなど考える事もなく、何となく毎日エアコンやストーブを点けたりしていた。もっと気をつけなければいけなかったと深く反省した。

街や乗り物などでも、暑すぎるほど暖房が効いていることも多い。一機ずつは人への快適さのための排出量であっても、一日あたりの地域、関東、日本全体で測ったら、やはりすごい合計量になるんだと思う。それが一、五、十年続いたら……。

二酸化炭素は目に見えず無臭の気体で、それ自体は酸素を生む光合成の材料の一つでもある。でもだからといって不必要に排出したり無関心ではいけない。みかんは木だから動けない。同じ土地で長く育てられる環境を保ちたい。その応援を僕もしようと思う。